

第 100 回

2017 年 1 月～3 月期

「景況調査」



福岡県中小企業家同友会

目次

1	回答者の属性	3
2	全体の景況判断	5
	(ア) 全体の景況感	5
	(イ) 各項目の状況	7
3	主要指標のクロス分析	12
	(ア) 景況感別の動向	12
	(イ) 業種別の動向	13
	(ウ) 従業員規模別の動向	13
	(エ) 本社地区別の動向	13
4	経営上の問題点	15
5	その他の調査項目	17
	(ア) 採用について	17
	(イ) 賃上げについて	18
6	経営指針書について	19
7	自由回答項目	21
	(ア) 景況理由	21

1 回答者の属性

このアンケートを回答したのはどのような人々か

前回より 95 件減少し、2015 年第Ⅱ期以来の 300 件割れとなった。サービス業が過半数、特に事業所向けは全体の 1/3 以上を占める。従業員規模は 0~5 名が最も多く、20 名以下で 7 割以上。本社が福岡地区にあるのが 7 割。

第 100 回:調査時期:平成 29 年 3 月 8 日~4 月 10 日

回収数:287 件

方法:edoyu アンケートシステム(Web)、及び FAX

回答方法		第99回		第100回		
No.	カテゴリ	件数	割合%	件数	割合%	構成比増減
1	WEB	314	82.2	267	93	10.8
2	FAX	68	17.8	20	7	-10.8
	サンプル数(%ベース)	382	382	287	287	-95
1.業種		第99回		第100回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	製造業(生産財)	24	6.3	13	4.5	-1.8
2	製造業(消費財)	30	7.9	28	9.8	1.9
3	建設業(建築)	31	8.2	29	10.1	1.9
4	建設業(土木)	12	3.2	10	3.5	0.3
5	建設業(設備)	26	6.8	21	7.3	0.5
6	商業・流通業	48	12.6	35	12.2	-0.4
7	サービス業(対事業所)	133	35	102	35.5	0.5
8	サービス業(対個人)	76	20	49	17.1	-2.9
	不明	2	0	0	0	
	サンプル数(%ベース)	382	380	287	287	-93
2.従業員数		第99回		第100回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	0名~5名	130	34	101	35.2	1.2
2	6名~10名	97	25.4	64	22.3	-3.1
3	11名~20名	57	14.9	45	15.7	0.8
4	21名~30名	33	8.6	23	8	-0.6
5	31名~50名	24	6.3	22	7.7	1.4
6	51名~100名	23	6	17	5.9	-0.1
7	100名以上	18	4.7	15	5.2	0.5
	不明	0	0	0	0	0
	サンプル数(%ベース)	382	382	287	287	-95

3.本社所在地		第99回		第100回		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	福岡地区	282	73.8	206	71.8	-2
2	北九州地区	32	8.4	24	8.4	0
3	筑豊地区	35	9.2	34	11.8	2.6
4	県南(筑後)地区	24	6.3	16	5.6	-0.7
5	福岡県外	9	2.4	7	2.4	0
	不明	0	0	0	0	0
	サンプル数(%ベース)	382	382	287	287	-95
4.所属支部		第99回		第100回		
No.	支部名	件数	(除不)%	件数	(除不)%	構成比増減
1	東支部	37	9.8	28	9.9	0.1
2	福岡支部	22	5.8	11	3.9	-1.9
3	博多支部	38	10	25	8.8	-1.2
4	中央支部	21	5.5	16	5.6	0.1
5	西支部	23	6.1	18	6.3	0.2
6	南支部	23	6.1	27	9.5	3.4
7	筑紫支部	23	6.1	15	5.3	-0.8
8	福友支部	56	14.8	29	10.2	-4.6
9	青年支部	17	4.5	6	2.1	-2.4
10	玄海支部	16	4.2	16	5.6	1.4
11	かすや支部	12	3.2	12	4.2	1
12	糸島支部	8	2.1	8	2.8	0.7
13	北九州支部	16	4.2	14	4.9	0.7
14	ひびき支部	12	3.2	9	3.2	0
15	筑豊支部	14	3.7	13	4.6	0.9
16	嘉飯支部	18	4.7	20	7	2.3
17	久留米支部	12	3.2	4	1.4	-1.8
18	大牟田支部	6	1.6	5	1.8	0.2
19	有明支部	3	0.8	4	1.4	0.6
20	りょうちく支部	2	0.5	4	1.4	0.9
	不明	3	0	3	0	0
	サンプル数(%ベース)	382	379	287	284	-95

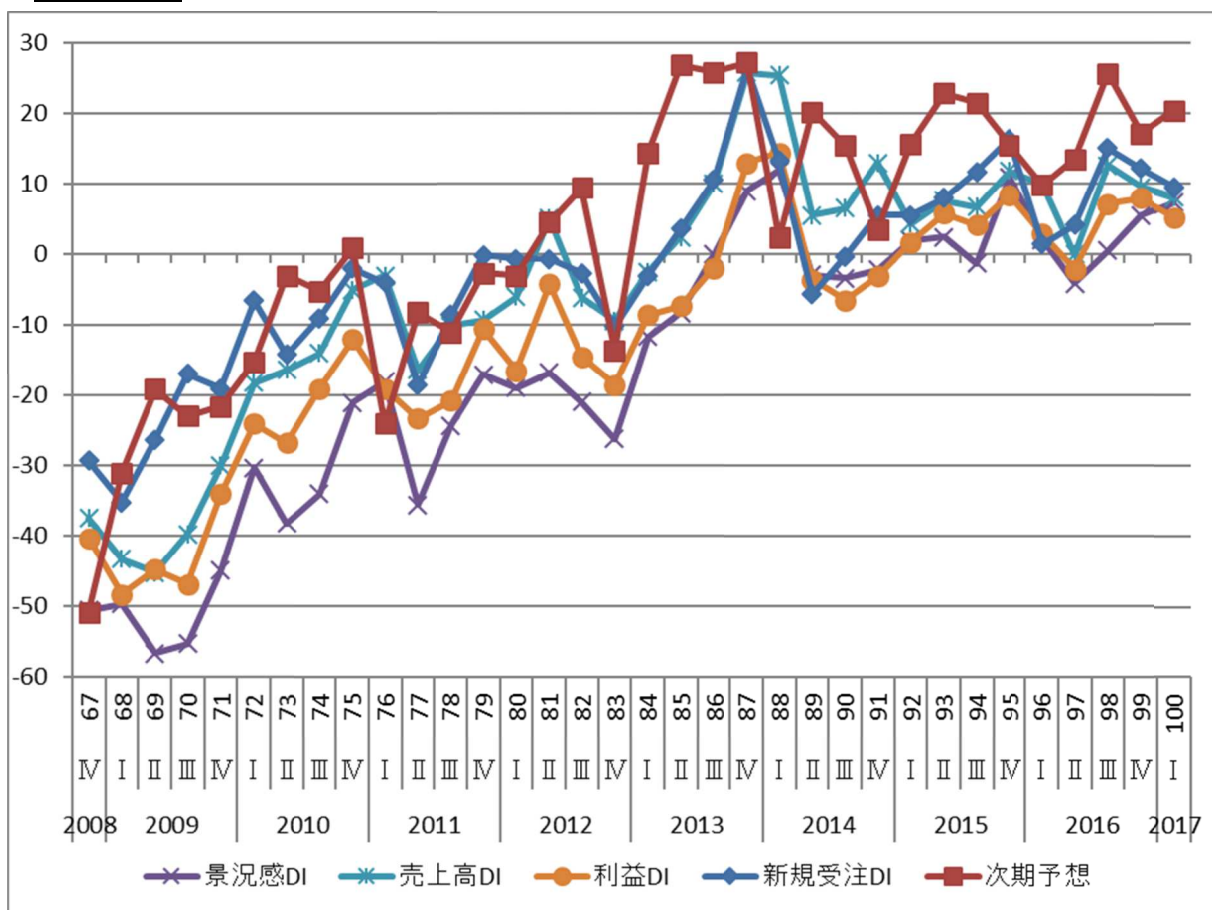
2 全体の景況判断

(ア) 全体の景況感

景況感各種 DI(よいー悪い)の状況はどうなっているか

売上、利益、新規受注の各 DI 指標がわずかに悪化したものの、景況感 DI、次期予想 DI は改善している。

全体の推移

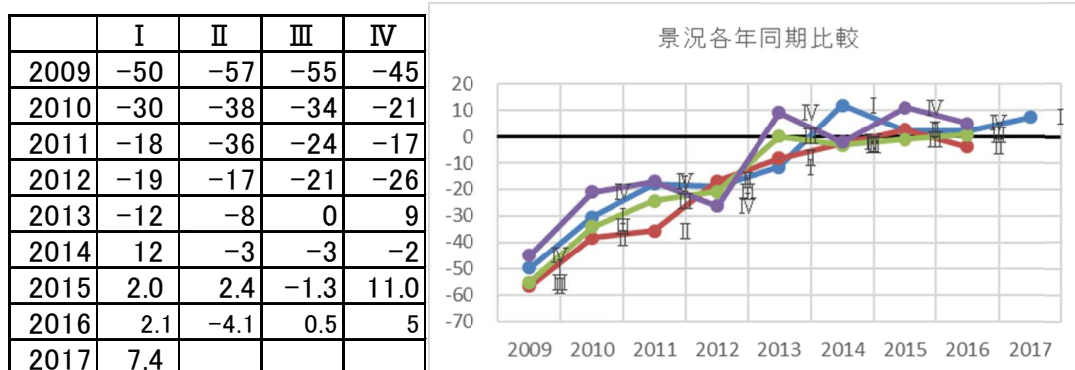


	今回数値	前回からの変動
景況感 DI	7.4	1.9
売上高 DI	8.2	-1.3
利益 DI	5.3	-2.7
新規受注 DI	9.5	-2.7
次期予想 DI	20.4	3.2

年	月	回	回収数	景況感DI	売上高DI	利益DI	新規受注DI	次期予想	資金繰りDI
2008	IV	67	467	-51	-38	-40	-29	-50.9	25
2009	I	68	491	-50	-43	-48	-35	-31	0
	II	69	421	-57	-45	-45	-26	-19.1	0
	III	70	475	-55	-40	-47	-17	-22.9	0
	IV	71	413	-45	-30	-34	-19	-21.6	-28
2010	I	72	432	-30	-18	-24	-7	-15.2	-17
	II	73	535	-38	-16	-27	-14	-3	-21
	III	74	485	-34	-14	-19	-9	5.2	-18
	IV	75	426	-21	-5	-12	-2	0.9	-15
2011	I	76	349	-18	-3	-19	-4	-24	-28
	II	77	398	-36	-16	-23	-19	-8.2	-11
	III	78	374	-24	-10	-21	-9	-11	-13
	IV	79	341	-17	-9	-11	0	-2.7	-10
2012	I	80	338	-19	-6	-17	-1	-3	-8
	II	81	437	-17	5	-4	-1	4.5	-6
	III	82	502	-21	-6	-15	-3	9.4	-15
	IV	83	357	-26	-9	-19	-10	-13.6	-16
2013	I	84	420	-12	-3	-9	-3	14.4	-16
	II	85	378	-8	2	-7	4	26.9	-8
	III	86	284	0	10	-2	11	25.9	1
	IV	87	290	9	26	13	26	27.3	0
2014	I	88	300	12	25	14	13	2.3	0
	II	89	319	-3	6	-4	-6	20.3	-6
	III	90	294	-3	7	-7	0	15.4	0
	IV	91	319	-2	13	-3	6	3.5	-1
2015	I	92	359	2.0	4.3	1.7	5.5	15.7	2.0
	II	93	298	2.4	7.6	5.8	8.0	22.9	7.4
	III	94	386	-1.3	6.7	4.2	11.7	21.5	2.6
	IV	95	355	11.0	11.8	8.4	16.4	15.5	3.9
2016	I	96	424	2.1	10.0	2.9	1.4	9.8	未調査
	II	97	347	-4.1	0	-2.1	4.2	13.5	10.0
	III	98	449	0.5	12.6	7.2	15.1	25.7	6.3
	IV	99	382	5.5	9.5	8	12.2	17.2	5.0
2017	I	100	287	7.4	8.2	5.3	9.5	20.4	未調査

2014以前は四捨五入
※資金繰りDIは73回より5段階評価

景況感是对前年同期のため、年別比較すると以下の通りとなっている。



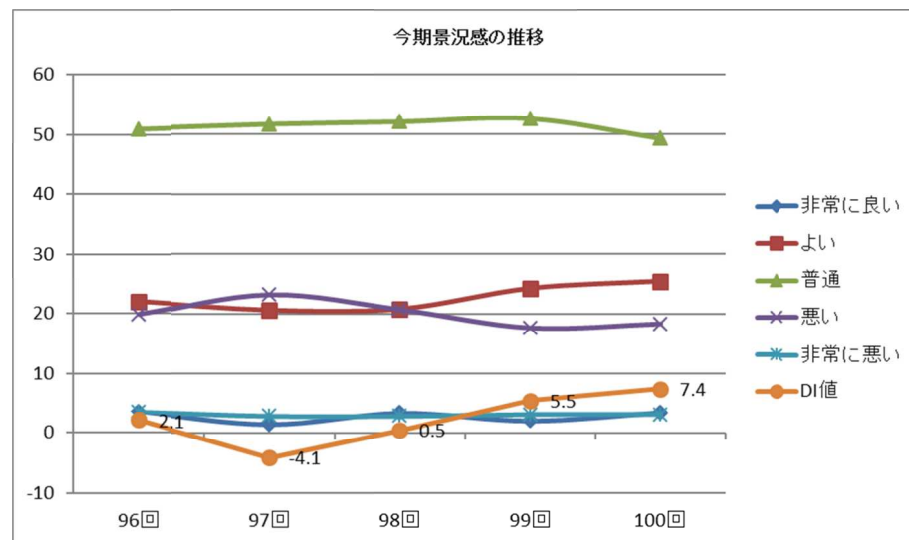
(イ) 各項目の状況

今期景況感 DI

2017 年 1 月～3 月期の貴社の景況判断はいかがでしたか。

最近では 97 回を底として 98 回以後 3 期連続で改善している。

5. 今期景況判断				第99回	DI値	5.5	第100回	DI値	7.4	+1.9
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	増減	件数	(除不)%	増減	
1	非常に良い	8	2.1	26.4	10	+1.4	72	25.5	+1.2	+2.6
2	よい	92	24.3	52.6	139	-3.3	52	18.4	+0.7	+0.7
3	普通	199	52.6	20.9	9	+0.0	5			
4	悪い	67	17.7							
5	非常に悪い	12	3.2							
	不明	4								
	サンプル数(%ベース)	382	378	287	282	-96				



約半数が「普通」であり、次いで全体の 1/4 以上が「よい」側である。

「普通」の構成比が減少し、「よい」側が 2.6 ポイント伸びている。

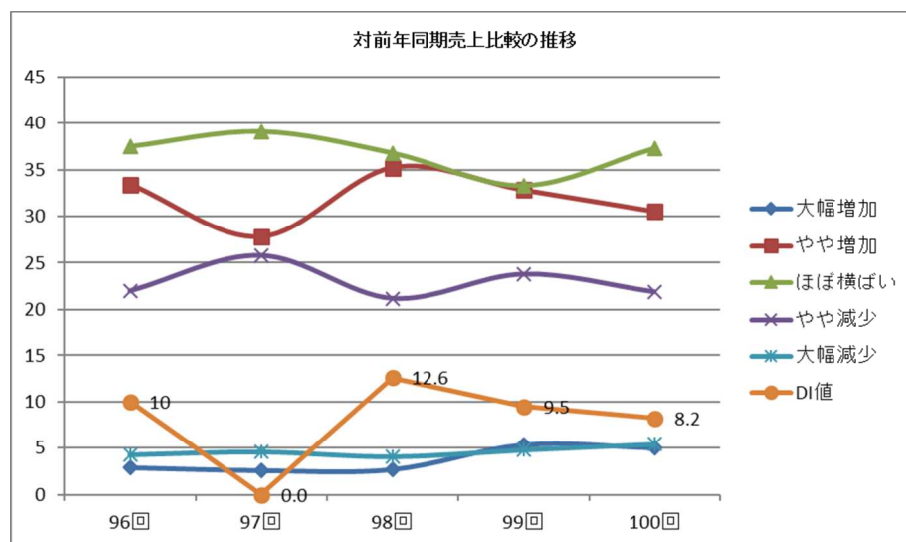
「悪い」側はほとんど変動していない。

売上高 DI

2017 年 1 月～3 月期の貴社の「売上高」について、前年同期(2016 年 1 月～3 月)に比較してお答えください。

98 回の 12.6 以後、2 期連続で減少している。

6.対前年同期売上高比較				第99回	DI値	9.5	第100回	DI値	8.2	-1.3
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	増減	件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	20	5.3	38.1	14	5	35.5	-0.3	-2.6	
2	やや増加	124	32.8	35.5	85	30.5	37.3	+4.0	-1.9	-1.3
3	ほぼ横ばい	126	33.3	37.3	104	37.3	27.3	+0.6		
4	やや減少	90	23.8	28.6	61	21.9	27.3	-1.9	-1.3	
5	大幅減少	18	4.8	28.6	15	5.4	27.3	+0.6		
	不明	4			8					
	サンプル数(%ベース)	382	378		287	279		-99		



4 割弱が「ほぼ横ばい」であり、次いで全体の 1/3 以上が「増加」側である。

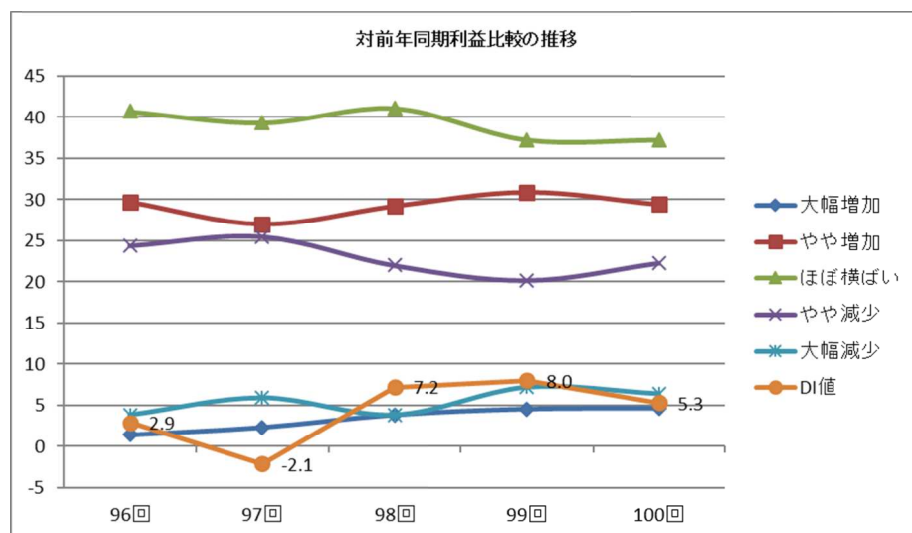
前回 99 回の悪化は「やや減少」の増加を伴っていたが、今回の悪化は「やや増加」が「普通」に転じたものであると考えられる。

利益 DI

2017 年 1 月～3 月期の貴社の「利益」について、前年同期(2016 年 1 月～3 月)に比較してお答えください。

前回、前々回の動きと一転して微減した。

7.対前年同期利益比較				第99回	DI値	8	第100回	DI値	5.3	-2.7
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	増減	件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	17	4.5	35.4	13	4.6	34	+0.1	-1.4	
2	やや増加	116	30.9		83	29.4		-1.5		
3	ほぼ横ばい	140	37.2	37.2	105	37.2	37.2	+0.0		
4	やや減少	76	20.2	27.4	63	22.3	28.7	+2.1	+1.3	
5	大幅減少	27	7.2		18	6.4		-0.8		
	不明	6			5					
	サンプル数(%ベース)	382	376		287	282		-94		



4 割弱が「ほぼ横ばい」であり、次いで全体の 1/3 以上が「増加」側である。

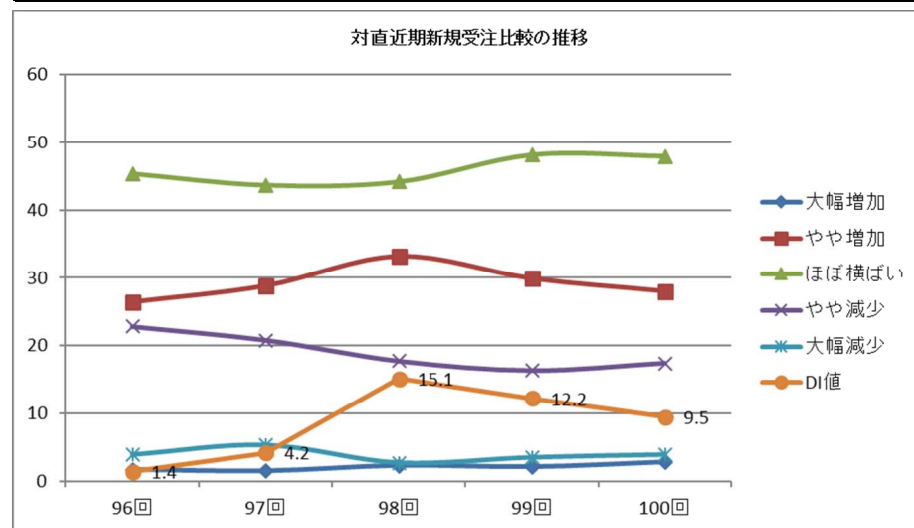
利益が「増加した」側から「減少した」側に転じており、「ほぼ横ばい」の回答割合は変動していない。

新規受注 DI

2017 年 1 月～3 月期の貴社の「新規受注」について、直近期(2016 年 10 月～12 月)に比較してお答えください。

98 回の 15.1 以来 2 期連続で減少している。

8.対直近期新規受注比較				第99回	DI値	12.2	第100回	DI値	9.5	-2.7
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	増減	件数	(除不)%	増減	
1	大幅増加	8	2.1	32	2.8	+0.7	8	2.8	-1.2	
2	やや増加	112	29.9	30.8	28	-1.9	79	28	-0.2	
3	ほぼ横ばい	180	48.1	47.9	47.9		135	47.9		
4	やや減少	61	16.3	21.3	17.4	+1.1	49	17.4	+1.5	
5	大幅減少	13	3.5		3.9	+0.4	11	3.9		
	不明	8					5			
	サンプル数(%ベース)	382	374			-92	287	282		



半数弱が「普通」であり、次いで全体の 1/3 弱が「よい」側である。

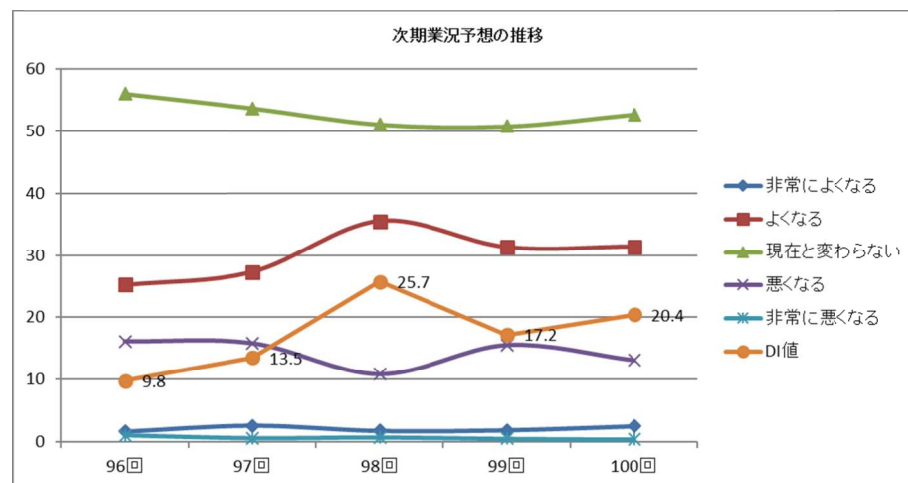
「やや増加」が 2 期連続で減少しているが、それに対して前回は「ほぼ横ばい」が、今回は「減少」側が増加している。

次期予想 DI

2017 年 4 月～6 月期の貴社の業況をどのように予想されていますか。

98 回が突出していたが、全体として右肩上がりの傾向となっている。

10.次期業況予想				第99回	DI値	17.2	第100回	DI値	20.4	+3.2
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	増減	件数	(除不)%	増減	
1	非常によくなる	7	1.9	33.2	7	2.5	33.9	+0.6	+0.7	
2	よくなる	117	31.3	33.2	89	31.4	33.9	+0.1	+0.7	
3	現在と変わらない	190	50.8	50.8	149	52.7	52.7	+1.9		
4	悪くなる	58	15.5	16	37	13.1	13.5	-2.4	-2.5	
5	非常に悪くなる	2	0.5	16	1	0.4	13.5	-0.1	-2.5	
	不明	8			4					
	サンプル数(%ベース)	382	374		287	283		-91		

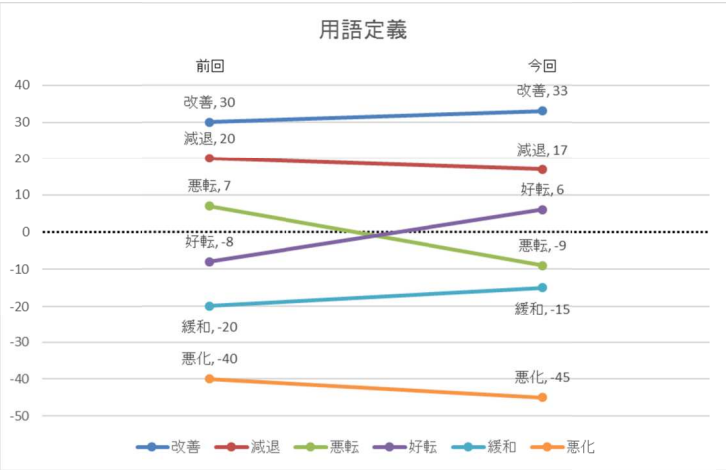


過半数が「現在と変わらない」であり、次いで全体の 1/3 程度が「良くなる」側である。

「よくなる」側は横ばい傾向であるが、「悪くなる」側が減少している。

3 主要指標のクロス分析

			DI値増加	DI値減少		
説明	DI値が正	改善の回答が多い	改善増進	改善減退	0か負から正	好転
	DI値が負	悪化の回答が多い	悪化緩和	悪化	0か正から負	悪転



本クロス分析では「よい」・「悪い」の差である DI 値を前回数値と比較した変動と合わせて評価している。

以下の表中カッコ内は前回との差であり太字は前回 DI 値から符号反転したことを示している。

DI 値がプラスである場合はよい回答が多いことを示しているため、前回より値が減少してもプラスである限りは全体の趨勢としてはまだ良であることを表している。

(ア) 景況感別の動向

景況感の良し悪しはその他の指標とどのような関係にあったか

景況感に関わらず前回より悪化した指標がそれぞれあるものの、景況が「非常に悪い」企業は各指標とも前回よりは大きく改善している。

	第100回	景況件数	景況DI構成比	売上高DI値	利益DI値	新規受注DI値	次期予想DI値	件単位
	有効回答数	282	100%	287	287	287	287	
今期景況感	非常に良い	10	3.5%(1.4)	70(-30)	100(0)	70(-5)	90(40)	10.0
	よい	72	25.5%(1.2)	73.6(-1.4)	73.6(0.8)	44.4(-15.6)	18.1(-27.5)	1.4
	普通	139	49.3%(-3.3)	6.5(-2.8)	3.6(-1.6)	6.5(-3.7)	23(10.8)	0.7
	悪い	52	18.4%(0.7)	-74.5(-5.9)	-88.2(-25.5)	-35.3(1.6)	2(11.1)	1.9
	非常に悪い	9	3.2%(0)	-66.7(16.7)	-66.7(25)	-33.3(48.5)	22.2(22.2)	11.1

(イ) 業種別の動向

業種別の各指標の状況はどのような状況であったか

まず製造業（消費財）が前回より大きく好転しているのが目立つ。また建設業の各指標も好転・悪転など動きがあったほか、商業・流通業は前回より悪化が目立っている。

第100回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		281(-95)	280(-96)	282(-92)	281(-91)	283(-89)	
全体	287	7.8(2.2)	7.9(-1.7)	5.3(-3)	9.3(-2.8)	20.5(3.8)	0.3
製造業(生産財)	13	7.7(3.5)	0(4.3)	7.7(3.5)	-8.3(-4.2)	15.4(11)	7.7
製造業(消費財)	28	10.7(27.4)	22.2(38.9)	14.3(17.6)	21.4(21.4)	21.4(7.6)	3.6
建設業(建築)	29	27.6(-3.4)	21.4(11.8)	17.2(17.2)	-6.9(-32.7)	-3.4(-23.4)	3.4
建設業(土木)	10	-33.3(-16.7)	-30(28.3)	-33.3(8.3)	-33.3(-16.7)	11.1(27.8)	10.0
建設業(設備)	21	19(7.5)	-4.8(-16.3)	5(8.8)	14.3(10.4)	19(-0.2)	4.8
商業・流通業	35	-9.1(-9.1)	-20.6(-18.5)	-20.6(-37.6)	-2.9(5.8)	26.5(9.8)	2.9
サービス業(対事業所)	102	12(-0.1)	17(-9.5)	9.9(-9.3)	21.8(-4.7)	29(1.1)	1.0
サービス業(対個人)	49	0(1.3)	8.5(-3.5)	8.3(2.9)	4.3(-6.8)	16.3(11)	2.0

(ウ) 従業員規模別の動向

従業員規模の大小は各指標でどのような差が表れたか

従業員規模別でみるとほとんどの項目がプラス域（良い側）となっており、前回のマイナス域から転じた好転も散見される。その中で21～30名や51～100名規模は好転が多く、6～10名は各指標が悪化、特に受注は大きく悪化し悪転している。

第100回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		281(-97)	279(-99)	282(-94)	281(-93)	283(-91)	
全体	287	7.8(2.3)	8.2(-1.3)	5.3(-2.7)	9.3(-3)	20.5(3.4)	0.3
従業員規模							
0名～5名	101	5(2.6)	6.1(-9.4)	0(-11.1)	13.1(-1.7)	22(0.4)	1.0
6名～10名	64	6.5(-9)	11.3(-1.3)	7.9(-0.5)	-3.1(-22.9)	14.1(1.4)	1.6
11名～20名	45	8.9(10.6)	9.1(3.8)	2.2(-1.3)	11.6(4.4)	15.9(-5.5)	2.2
21名～30名	23	13.6(28.8)	9.1(27.8)	13(10)	4.3(4.3)	26.1(20)	4.3
31名～50名	22	19(-2.7)	4.5(-16.3)	4.5(-33)	22.7(-2.3)	38.1(25.6)	4.5
51名～100名	17	0(-8.7)	12.5(12.5)	25(46.7)	20(34.3)	31.3(13.9)	5.9
100名以上	15	13.3(2.2)	6.7(-4.4)	7.1(1.6)	6.7(0.8)	6.7(-15.6)	6.7

(エ) 本社地区別の動向

地区別ではどのような状況であったか

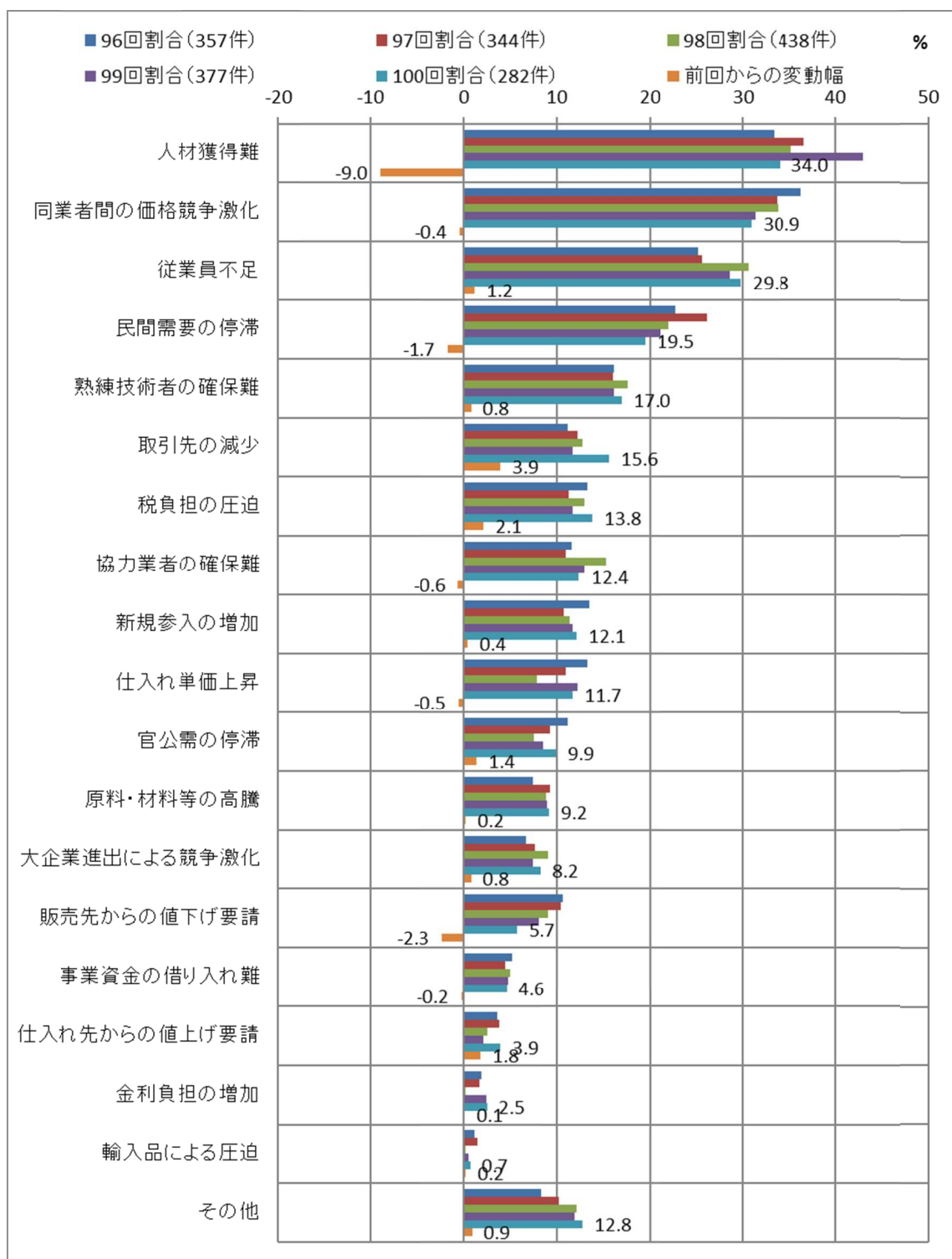
全体的にはプラス域が多いが北九州地区の悪化が目立つ。ただし同地区は受注と次期予想については好転している。

第100回	景況件数	景況DI	売上DI	利益DI	受注DI	次期予想DI	件単位
クロス回答数		281(-97)	279(-99)	282(-94)	281(-93)	283(-91)	
全体	287	7.8(2.3)	8.2(-1.3)	5.3(-2.7)	9.3(-3)	20.5(3.4)	0.3
本社地区							
福岡地区	206	10.3(4.2)	10.4(0.1)	6.9(-1)	8.3(-8.2)	22.5(-1.1)	0.5
北九州地区	24	-22.7(-16.5)	-39.1(-42.4)	-43.5(-36.8)	9.1(26.3)	16.7(47.9)	4.2
筑豊地区	34	6.1(-2.8)	14.7(6.1)	8.8(0.3)	0(0)	18.2(-4.7)	2.9
県南(筑後)地区	16	0(0)	14.3(14.3)	26.7(10)	20(7.5)	0(17.4)	6.3
福岡県外	7	57.1(23.8)	57.1(19.6)	57.1(23.8)	66.7(44.4)	28.6(-27)	14.3

4 経営上の問題点

貴社において、現在の経営上の問題点の内、特に厳しいもの上位3項目を選んでご回答ください。

人材獲得難の回答割合が減少したほかは大きな動きはない。



業種別の経営上の問題点										
	%	全体	製造業 (生産財)	製造業 (消費財)	建設業 (建築)	建設業 (土木)	建設業 (設備)	商業・ 流通業	サービス業 (対事業所)	サービス業 (対個人)
	回答件数	287	13	28	29	10	21	35	102	49
1	官公需の停滞	9.8	—	10.7	6.9	30	14.3	14.3	9.8	4.1
2	民間需要の停滞	19.2	23.1	32.1	17.2	10	28.6	31.4	12.7	14.3
3	原料・材料等の高騰	9.1	38.5	28.6	10.3	—	9.5	8.6	3.9	2
4	仕入れ単価上昇	11.5	23.1	14.3	10.3	—	9.5	11.4	11.8	10.2
5	事業資金の借り入れ難	4.5	7.7	7.1	3.4	—	4.8	2.9	4.9	4.1
6	仕入れ先からの値上げ要請	3.8	7.7	7.1	6.9	—	—	2.9	4.9	—
7	税負担の圧迫	13.6	7.7	3.6	13.8	10	14.3	5.7	15.7	22.4
8	新規参入の増加	11.8	—	7.1	6.9	—	—	8.6	14.7	24.5
9	同業者間の価格競争激化	30.3	23.1	32.1	17.2	20	38.1	42.9	25.5	38.8
10	金利負担の増加	2.4	7.7	3.6	—	—	—	5.7	1	4.1
11	取引先の減少	15.3	7.7	17.9	17.2	—	14.3	17.1	13.7	20.4
12	販売先からの値下げ要請	5.6	—	7.1	6.9	—	4.8	11.4	5.9	2
13	熟練技術者の確保難	16.7	15.4	10.7	41.4	30	33.3	2.9	11.8	16.3
14	協力業者の確保難	12.2	7.7	7.1	17.2	40	28.6	5.7	9.8	10.2
15	輸入品による圧迫	0.7	—	7.1	—	—	—	—	—	—
16	大企業進出による競争激化	8	7.7	3.6	—	—	4.8	11.4	11.8	8.2
17	人材獲得難	33.4	38.5	35.7	55.2	50	23.8	28.6	28.4	32.7
18	従業員不足	29.3	23.1	21.4	37.9	40	23.8	28.6	28.4	32.7
19	その他	12.5	23.1	7.1	6.9	10	14.3	11.4	12.7	16.3
各業種別回答数に対するパーセント										
色付きセルは業種別の上位五項目										

5 その他の調査項目

(ア) 採用について

	12.新卒採用予定	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	1人	27	9.6	9.4
2	2人	23	8.2	8
3	3人	7	2.5	2.4
4	4人	3	1.1	1
5	5人以上	8	2.9	2.8
6	入社予定なし	212	75.7	73.9
	不明	7		2.4
	N (%ベース)	287	280	100

「入社予定なし」が全体の 3/4 程度であった。採用の場合は 1 名または 2 名が多い。

	13.採用活動成果	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	予定通り採用できた	61	22.9	21.3
2	採用はしたが予定通りにいかなかった	30	11.3	10.5
3	採用活動をおこなったが採用に至らなかった	35	13.2	12.2
4	採用活動はしなかった	140	52.6	48.8
	不明	21		7.3
	N (%ベース)	287	266	100

採用について何らかの問題があった2と3を合わせると、全体の 1/4 弱は採用に関し不足があったということが言える。

	14.不足人数	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	1人	25	39.1	38.5
2	2人	20	31.3	30.8
3	3人	11	17.2	16.9
4	4人	2	3.1	3.1
5	5人以上	5	7.8	7.7
6	入社予定なし	1	1.6	1.5
	不明	1		1.5
	N (%ベース)	65	64	100

前項の 2 番と 3 番を合わせた 65 件を対象に不足人数を見ると、9 割弱は 3 名までに収まっている。

(イ) 賃上げについて

15.賃上げ予定		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	昨年と連続して賃上げする	131	47.6	45.6
2	昨年はしなかったが今年は賃上げする	24	8.7	8.4
3	昨年は賃上げしたが今年は賃上げしない	19	6.9	6.6
4	昨年・今年連続して賃上げしない	46	16.7	16
5	わからない	55	20	19.2
	不明	12		4.2
	N (%ベース)	287	275	100

連続しての賃上げは 47.6%(除不)で、今回のみを含めると過半数が賃上げを行うと回答した。

16.賃上げ方法		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	月額給与で賃上げ	107	69.9	69
2	賞与(一時金)で賃上げ	15	9.8	9.7
3	月額給与・賞与の両方で賃上げ	29	19	18.7
4	その他	2	1.3	1.3
	不明	2		1.3
	N (%ベース)	155	153	100

賃上げの方法としては全体の 9 割弱が月額給与の賃上げを伴った形で行うと回答した。

17.月額給与アップ率		(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	～1%アップ	16	11.8	11.8
2	1～2%アップ	50	36.8	36.8
3	2～3%アップ	42	30.9	30.9
4	3%以上アップ	28	20.6	20.6
	不明	0		0
	N (%ベース)	136	136	100

最も多い回答は「1～2%アップ」で、次いで「2～3%アップ」「3%以上アップ」となっている。

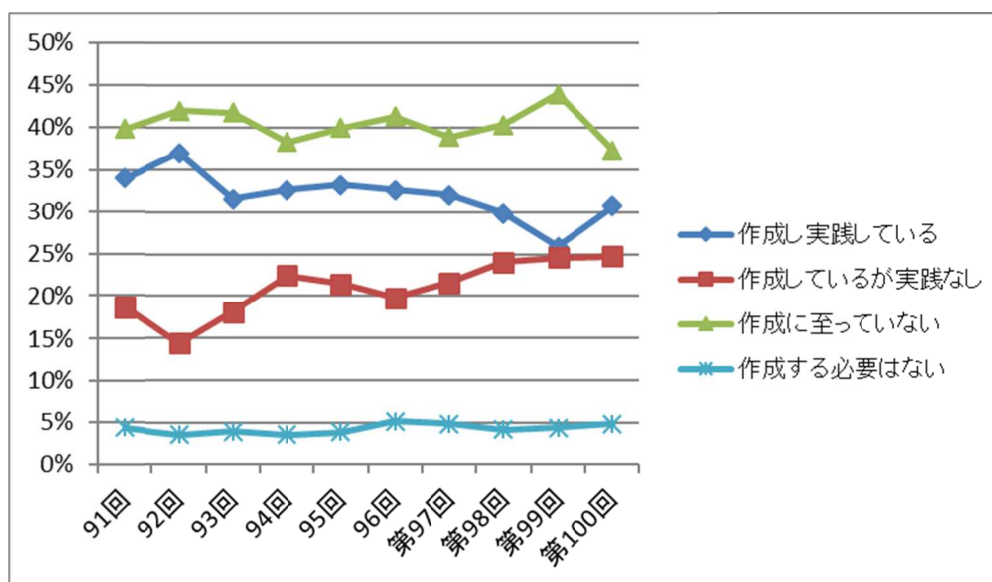
6 経営指針書について

作成の状況

経営指針書を作成していますか。また、指針書に基づいた経営を実践していますか。

「作成し実践している」という回答割合は前回と反転して前々回の水準に戻っているほか、「作成に至っていない」は減少している。「実践なし」は横ばいである。

	経営指針書の作成と実践	第99回		第100回		構成比増減
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	件数	(除不)%	
1	作成し実践している	99	26.2	88	31.4	5.2
2	作成しているが実践なし	94	24.9	71	25.4	0.5
3	作成に至っていない	168	44.4	107	38.2	-6.2
4	作成する必要はない	17	4.5	14	5	0.5
	不明	4		7		0.0
	サンプル数(%ベース)	382	378	287	280	-98



検証状況

「作成し実践している」と回答された方にお尋ねします。毎月、検証(チェック)していますか。

実践している企業のほとんどは一定の頻度で検証している。

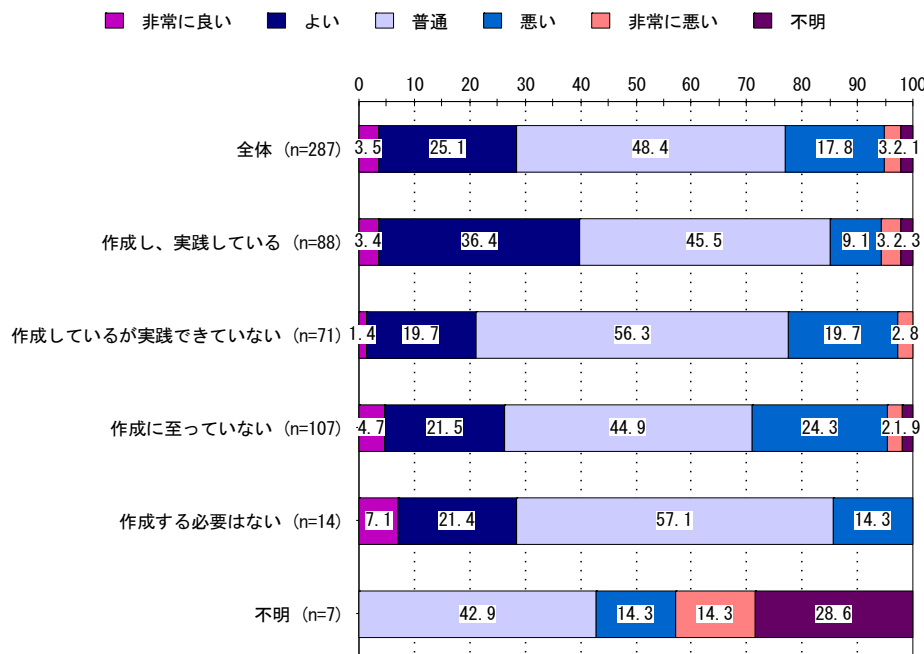
	19.経営指針書の検証について	(SA)		
No.	カテゴリ	件数	(除不)%	(全体)%
1	毎月検証している	37	42	42
2	毎月ではないが検証している	41	46.6	46.6
3	年に1回は検証している	9	10.2	10.2
4	全く検証していない	1	1.1	1.1
	不明	0		0
	サンプル数(%ベース)	88	88	100

経営指針書の成果

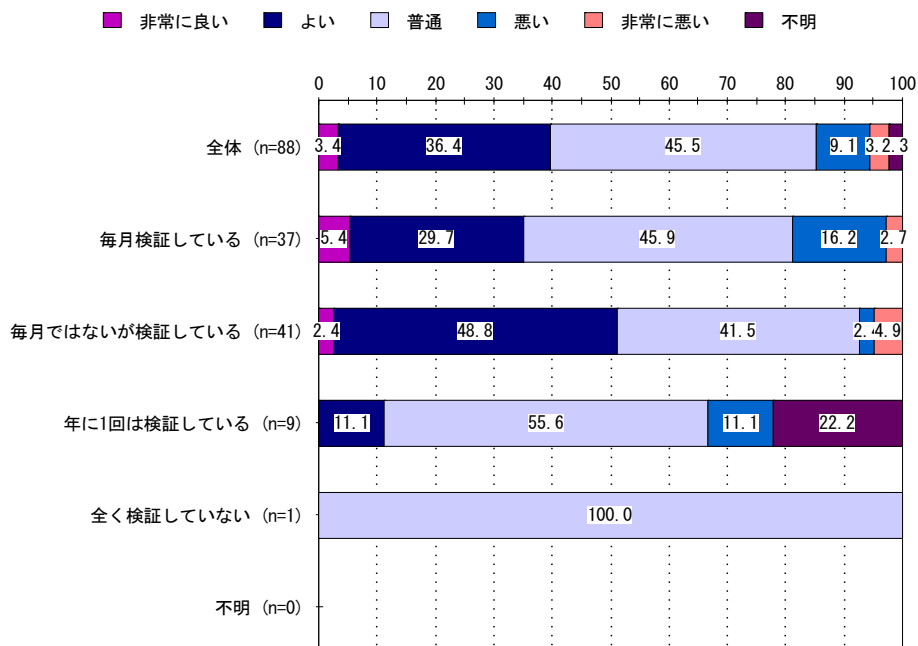
経営指針書の活用は今期景況感の回答にどのように関係しているか

作成し実践する企業は景況が「よい」が多く「悪い」側が少ない。チェックについては年一回よりも多い方が「よい」側で差が出ている。

5. 今期景況判断 × 18. 経営指針書について



5. 今期景況判断 × 19. 経営指針書の検証について



7 自由回答項目

(ア) 景況理由

。

	景況	業種	従業員数	本社	内容
1	非常に良い	製造業(消費財)	11～20	筑後	需要の大幅増による受注の増加による。市場で特定商品群の需要が高まっており、市場全体で供給不足となっている状態。
2	非常に良い	製造業(消費財)	51～100	福岡	お客様の販売が好調。及び新規獲得
3	非常に良い	建設業(設備)	21～30	福岡	大型受注。
4	非常に良い	商業・流通業	0～5	福岡	大口物件が続いた
5	非常に良い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	同友会もありますが、ゴルフなので人脈が広がったため、景気が良くなってきました。
6	非常に良い	サービス業(対事業所)	51～100	福岡	財務状態が安定している
7	よい	製造業(生産財)	31～50	福岡	九州生産の自動車の動きがあったため。
8	よい	製造業(消費財)	11～20	福岡	販売戦略(重点販売品集中)と粗利確保の意識改革、実践が良い結果となった。
9	よい	製造業(消費財)	51～100	福岡県外	新規の問い合わせがあり、取引引きに結びついた
10	よい	建設業(建築)	0～5	福岡	営業活動時期の長期化
11	よい	建設業(建築)	6～10	福岡	例年通り。時期的なもの。
12	よい	建設業(建築)	6～10	福岡	前期の工事残があった。
13	よい	建設業(建築)	6～10	福岡	同友会は素晴らしい。
14	よい	建設業(建築)	6～10	福岡	全体的に景気がいいと思われます。
15	よい	建設業(建築)	11～20	福岡	熊本の震災復旧工事の影響
16	よい	建設業(建築)	21～30	福岡	オリンピックおよび熊本地震効果
17	よい	建設業(建築)	100 以上	福岡	福岡地区は人口の増加とホテル等の案件で建設関係は多忙である。
18	よい	建設業(土木)	21～30	福岡	受注形態の絞込み。
19	よい	建設業(設備)	31～50	筑豊	直近期の受注が増えて1月～3月期の売上が増えたが、これは、金額の大きな完成工事物件が直近期に受注できたこと。1月～3月は年度末を控え発注が手控えられたためと考える。
20	よい	建設業(設備)	100 以上	福岡	協力業者不足、社員不足、技術者不足。

21	よい	商業・流通業	0～5	福岡	hp からの問合せ
22	よい	商業・流通業	0～5	福岡	寒さが続いているから。
23	よい	商業・流通業	11～20	福岡	自動車業界の動向に影響されることはあります。その中で施策をうっている為、大幅減少とは張っていないと思います。
24	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	昨年 6 月より営業職を採用し新規営業の量を増やしてきた成果がこのところ出てきたことに起因しています。
25	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	顧客の増加。
26	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	助成金依頼が増加。
27	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	18年新卒採用に向けた計画的なものです。
28	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	建設が増えているため。
29	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	福岡へのオフィス移転・改装の増加。
30	よい	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	年度末業務の受注による。3月は不明のため新規は減少した。
31	よい	サービス業(対事業所)	11～20	北九	新規の工務店からの仕事が増えた。
32	よい	サービス業(対事業所)	11～20	福岡県外	得意先の増加。
33	よい	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	住宅ローン金利の低下、熊本地震、消費税の駆け込み、東京オリンピック等
34	よい	サービス業(対事業所)	31～50	福岡	受注が伸びているが人件費(処遇改善)により管理費増。
35	よい	サービス業(対事業所)	51～100	福岡	営業強化。
36	よい	サービス業(対個人)	0～5	筑豊	金額の大きい受注が続けてあった
37	よい	サービス業(対個人)	0～5	筑豊	車両販売増と 2016/11 から社員が一人減った
38	よい	サービス業(対個人)	0～5	筑豊	開業3年目を迎えるようしており、地域に名前が知られるようになったから。
39	よい	サービス業(対個人)	6～10	福岡	事業承継期間中で、巧く承継が進んでいる為
40	よい	サービス業(対個人)	6～10	福岡	企業努力として業務内容の充実、新規開拓をしました。
41	よい	サービス業(対個人)	6～10	筑豊	社員が増えた為。
42	よい	サービス業(対個人)	21～30	筑豊	新規は増加傾向だが、時期的に閑散期に近くなっているため横ばい
43	普通	製造業(生産財)	31～50	福岡	下半期に売上予算を増やしたため
44	普通	製造業(消費財)	6～10	筑豊	昨年と比較しての取引先は増加したが、利益率が低く、またそれによって十分な営業活動がとれなくなったため。また、繁忙期(10月～12月)の反動から、売上は例年、低調気味である。
45	普通	製造業(消費財)	11～20	福岡	資材関係の値上げ、更なる価格下落における要請等。
46	普通	製造業(消費財)	21～30	福岡	既存の顧客からの受注が減り、新規の顧客からの受注が増えた。新規参入の顧客獲得が増えたがその分古からの顧客も減っている。
47	普通	製造業(消費財)	51～100	福岡	全般的に需要減と思われる。
48	普通	製造業(消費財)	100 以上	北九	競争激化のためと、輸出入の為替の影響などが要因と思われる。

49	普通	建設業(建築)	0～5	福岡	無し
50	普通	建設業(建築)	0～5	福岡	社員の減少
51	普通	建設業(建築)	0～5	北九	仕事があっても、腕の良い職人がいない。
52	普通	建設業(建築)	11～20	筑後	営業強化不足。
53	普通	建設業(土木)	0～5	福岡	SEO リストアップ。
54	普通	建設業(土木)	11～20	福岡	計画より受注量が足りなかった
55	普通	建設業(設備)	6～10	福岡	安定した元請方の確保により仕事量はほぼ変わらない。
56	普通	建設業(設備)	6～10	福岡	昨年、大型物件があった為。
57	普通	建設業(設備)	11～20	北九	社会保険問題の影響。
58	普通	建設業(設備)	21～30	筑後	今年になって顧客の設備投資が増えた
59	普通	建設業(設備)	100 以上	福岡	毎年度の仕事が昨年より少ない。民間の設備投資は減っている感じ。
60	普通	商業・流通業	6～10	福岡	増加と減少があり、業績が良く伸びている企業と毎年毎に減少している企業があり、差がある
61	普通	商業・流通業	11～20	福岡	燃料の価格が昨年度より下がったので。
62	普通	商業・流通業	21～30	福岡	隣接店の営業権を一部もらった為。
63	普通	商業・流通業	31～50	福岡	新商品投入の遅れ。
64	普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	臨時の売上。
65	普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	事業内容移行中のため。
66	普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	季節的な傾向
67	普通	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	企業研修をした先様の良い評価が続いているので、登録をしている会社からの依頼が増えた為。
68	普通	サービス業(対事業所)	0～5	筑後	日常の努力の継続で仕事が来ていると思います。
69	普通	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	新年度当初より、経営計画をしっかり立て、振り返りをしながらサポートした。
70	普通	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	2016 年10～12月が良過ぎた。
71	普通	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	新規取引先が計画通りに獲得できなかった。
72	普通	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	顧客の減少、取引先の仕事量減。
73	普通	サービス業(対事業所)	6～10	北九	従来の顧客の売上減少と新規顧客の開拓
74	普通	サービス業(対事業所)	11～20	福岡	取引先の拡大。
75	普通	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	組織が育ってきているが人員不足感が大きくなっている。
76	普通	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	努力不足
77	普通	サービス業(対事業所)	31～50	福岡	業界の法改正で新規の動きが出来ない。
78	普通	サービス業(対事業所)	51～100	北九	店舗数が増えた。

79	普通	サービス業(対個人)	0～5	福岡	紹介による仕事が増えた。
80	普通	サービス業(対個人)	0～5	福岡	物件仕込みの為
81	普通	サービス業(対個人)	6～10	福岡	日常業務に変化がないため
82	普通	サービス業(対個人)	6～10	福岡	取引先からの仕事量減少。
83	普通	サービス業(対個人)	6～10	福岡	新サービスの導入。
84	普通	サービス業(対個人)	11～20	福岡	例年季節的に同様の動きです。
85	悪い	製造業(消費財)	6～10	筑豊	既存顧客の売上減少だが固定費(従業員、その他)減。
86	悪い	製造業(消費財)	11～20	福岡	年度末の受注が例年と異なり減少した。
87	悪い	製造業(消費財)	11～20	福岡	好転材料なし
88	悪い	建設業(建築)	0～5	筑豊	物件の絶対量の不足。
89	悪い	建設業(土木)	0～5	筑豊	思ったように工事が受注できなかった。
90	悪い	建設業(土木)	11～20	福岡	工事量が少ない
91	悪い	建設業(設備)	0～5	北九	従業員が減少したために受注を控えた
92	悪い	商業・流通業	0～5	福岡	お客様に元気がない。
93	悪い	商業・流通業	0～5	福岡	仕入れの上昇を価格に転嫁出来ず。
94	悪い	商業・流通業	51～100	筑豊	製造業全体が停滞。
95	悪い	商業・流通業	51～100	筑豊	昨年大型受注があったため
96	悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	営業力不足。
97	悪い	サービス業(対事業所)	0～5	筑豊	既存事業の業績低迷、大手との競争激化
98	悪い	サービス業(対事業所)	0～5	筑豊	社員が増えたのと設備投資をおこなったから。
99	悪い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	従業員を1名増やし給与支払いのため利益減
100	悪い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	前年後半期に経営者がプレーヤーとしての活動時間が多く、営業に専念できなかったため、その影響が現在出てきたと思われる。
101	悪い	サービス業(対事業所)	11～20	福岡	仕入れが不調であった。
102	悪い	サービス業(対事業所)	21～30	福岡	同業大手による過当競争の煽りとスマホ普及による利用メディアの変化
103	悪い	サービス業(対事業所)	31～50	福岡	人材確保難による供給力ダウン
104	悪い	サービス業(対事業所)	51～100	福岡	人材不足で、外注費の増加や補充社員の教育訓練などの2重人件費が増えている
105	悪い	サービス業(対事業所)	100以上	北九	行政の方針変更にともない、発注が減少したため
106	悪い	サービス業(対事業所)	100以上	筑後	得意先に提案しても先方の予算がない
107	悪い	サービス業(対個人)	0～5	福岡	消費の低さと顧客の高齢化、他。
108	悪い	サービス業(対個人)	0～5	福岡	HPのみで集客を行ってたがヒット率が下がっている。
109	悪い	サービス業(対個人)	0～5	福岡	営業力不足。

110	悪い	サービス業(対個人)	0～5	北九	売上や利益が減少したのは、建築部門を完全に分離したためですが。不動産だけの売上でも思った以上に伸びていない為
111	悪い	サービス業(対個人)	6～10	福岡	11月に開講したばかりですので、まだ結果が出ていません。
112	悪い	サービス業(対個人)	51～100	北九	北九州地区の景気の低迷
113	非常に悪い	製造業(生産財)	6～10	福岡	新規取引先が増えたため
114	非常に悪い	建設業(建築)	100 以上	福岡	客先の受注減
115	非常に悪い	商業・流通業	0～5	福岡	物件の取扱いがない。人脈からの広がりがない。
116	非常に悪い	サービス業(対事業所)	0～5	福岡	不特定多数への営業が不足した為。
117	非常に悪い	サービス業(対事業所)	6～10	福岡	社員の入院のため仕事を進められなかった。
118	－	商業・流通業	31～50	筑豊	市場の収縮。競争激化。